

# 今年度の糸賀一雄記念賞および糸賀一雄記念未来賞の受賞者が決定しました。

公益財団法人糸賀一雄記念財団では、故糸賀一雄氏の思想や取り組みを新しい目で見直し、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、障害福祉などの分野で顕著な活躍をされている個人・団体に「糸賀一雄記念賞」を、障害者または障害者と同様に社会的障壁による「生きづらさ」がある人に関する取り組みが先進的であり、今後の活躍が期待される個人・団体に「糸賀一雄記念未来賞」を授与しています。

以下のとおり、令和4年度の受賞者が決定し、授賞式を開催します。

## 1. 受賞者の決定について（詳細は別紙のとおり）

### ○第24回糸賀一雄記念賞

・水流源彦氏

（鹿児島県鹿児島市：社会福祉法人ゆうかり 理事長）

### ○第8回糸賀一雄記念未来賞

・特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク

（東京都世田谷区：理事長 廣川 麻子）

・特定非営利活動法人みぎわ

（奈良県奈良市：理事長 櫻井 徳恵）

## 2. 授賞式の開催について

・開催日時：令和4年11月12日（土）午後2時から午後4時半まで

・開催場所：ホテルニューオウミ あづちの間

（近江八幡市鷹飼町 1481）

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、受賞者およびその関係者に限定した参加制限のもとで開催します。

※授賞式の模様を、ライブ配信する予定です。

詳細は、財団ホームページ(<http://www.itogazaidan.jp/>)にて、後日お知らせします。

## 第 24 回 糸 賀 一 雄 記 念 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

水流 源彦 氏(鹿児島県鹿児島市)



### ■経歴

- 1970年 鹿児島県鹿児島市に生まれる。祖父の代から社会福祉法人を運営し、入所施設敷地内に自宅があったため、知的障害のある人々に囲まれて育つ。
- 1993年 社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮に就職
- 1997年 父の経営する社会福祉法人に転職
- 2015年 社会福祉法人ゆうかり理事長に就任

### ■活動内容

- ・施設から地域への移行という機運がまだまだ起きていなかった鹿児島市で在宅支援サービス事業を立ち上げるため、旧来の入所施設での保護を中心とした支援から、住み慣れた地域で暮らし続ける支援へと転換させようと、不安を抱く職員に丁寧語りかけ、励ましながら在宅支援サービスやグループホームの整備など、実践活動を確実に積み重ねてきた。
- ・グループホームの整備を地域住民から反対された際、障害に対する社会的バリアを実感し、「障害」という言葉を知る前に子ども同士が交流する環境を作ることの大切さを、自身の子ども時代の原風景と重ね合わせ、ゆうかり保育園を開設した。障害のある子どもを募集しているわけではないが、発達障害や知的障害、医療的ケアの必要な子どもが一定程度在籍している。
- ・障害者が地域で安心して暮らし続けるための地域生活支援拠点について、鹿児島市では(社福)ゆうかりが中心的に実施しているが、市内 17 法人(社会福祉法人、NPO 法人等)との連携協定締結による事業実施のための受け入れ体制を構築しており、拠点の機能強化への先駆的・モデル的な取り組みとなっている。

入所施設の機能やマンパワーを活かした地域福祉への展開に取り組み、とりわけ、地域生活支援拠点事業について、行政や他団体との良好な連携関係を構築され、他法人と連携した面的実施は、独創的、画期的なものであると高く評価され、その先進的な活動の全国への広がりにより今後一層の活躍が期待されることとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

## 第 8 回 糸 賀 一 雄 記 念 未 来 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(東京都世田谷区)



※「舞台手話通訳者のための集合研修 in 豊橋」

<https://blog.canpan.info/ta-net/archive/798>

### ■活動歴

2012年 観劇支援団体シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)を設立。

2013年 NPO認証を受ける。

聴覚障害を持つ当事者が中心となり、演劇愛好者、手話通訳者、演劇人とともに活動を展開。

2014年から視覚障害者へ、2018年から盲ろう(視聴覚二重障害)者へと観劇サポート活動を広げている。

2015年 舞台手話通訳カリキュラム作成委員会を立ち上げ、養成講座開講(2016年)。

2016年 観劇サポート支援推進提言委員会を立ち上げ、「多様な人々に開かれた観劇サポートシステムの構築に向けた10の提言~聴覚障害者編~」を発表。

2018年~2019年 舞台手話通訳養成講座を全国6カ所で開講。

2020年~全国各地より相談を受けながら、観劇サポートのつく舞台を増やすべく相談・助言・協働・舞台手話通訳派遣を行っている

### ■活動内容

- ・演劇などの舞台における情報保障(オープン・クローズド字幕、舞台手話通訳、視覚障害者向け音声ガイド)の普及促進、人材育成、調査研究開発、関係団体との連携など、潜在する観劇希望者への情報提供と利用機会の促進に寄与する活動を展開し、文化芸術分野における合理的配慮、アクセシビリティ対応の展開を先駆的に実践している。
- ・観劇サポートに付随するものとして、受付での手話・筆談対応、アフタートークの手話通訳付与などのサポートも推奨し、劇団劇場と協働しながら、舞台手話通訳や字幕、音声ガイドを装備した演劇作品を多く生み出している。

聴覚障害を持つ当事者を中心に活動を展開し、視覚障害者、視聴覚二重障害者へと活動を広げていることが素晴らしく、生活を送るうえで大切な文化芸術活動への障害者に対する合理的配慮やアクセシビリティ対応の先駆的な取り組みが高く評価され、今後ますますの活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。

## 第8回糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

### 特定非営利活動法人みぎわ(奈良県奈良市)



#### ■活動歴

2015年 「ゆりかごから墓場まで」を合言葉にすべての人に寄り添うためにNPO法人を設立。

「みぎわ訪問介護事業所」を開設。

2016年 「ホームホスピスみぎわ」を開設。

(病いや障害によって生きていくうえで困難に直面している人が最期まで尊厳をもって暮らせるよう開設。奈良県では初の取り組み)

2017年 第2種社会福祉事業として「養子縁組あっせん事業」を開始。

2018年 養子縁組あっせん事業許可取得

#### ■活動内容

- ・特別養子縁組、ホームホスピス、訪問介護という事業展開により、「ゆりかごから墓場まで、困っている人に寄り添う」との法人の理念を実践している。
- ・思いがけない妊娠をした方や課題を抱える妊娠、出産をされた方の相談にのり、寄り添いサポートを行うとともに、どうしても育てることのできない赤ちゃんを、特別養子縁組をして育ての親に託す活動を行っている。特別養子縁組の活動では、その対象を障害のある子どもを中心にしており、民間あっせん機関としては全国でも初めてであり、2022年4月現在で10組の縁組を成立させている。

障害のある子の特別養子縁組の取り組みは全国にも例がない先駆的な取り組みであることが高く評価され、日本ではまだまだ遅れている里親制度等の普及につながるなど、活動による広がりも期待でき、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。